

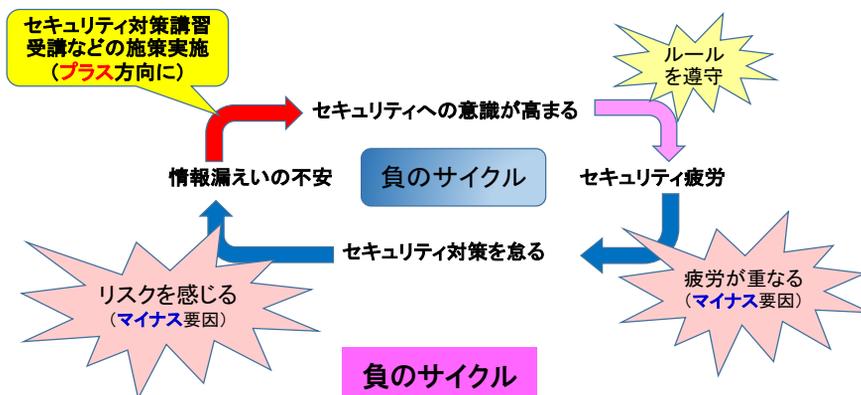
大学生の情報セキュリティ疲れの可視化に関する一考察

理工学部 応用情報工学科 金井 敦
2018年7月19日

畑島 隆 (NTT), 永井 啓太 (千葉工大), 谷本 茂明 (千葉工大), 金井 敦 (法政大学) の共同研究

概要

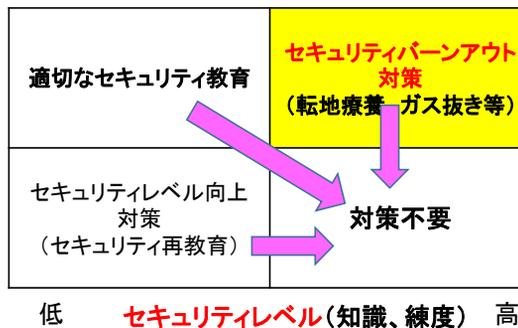
情報化社会の高度化に伴い、情報セキュリティ対策の重要性は増すばかりである。それに伴い、企業や学校、公的機関などが、情報端末を用いるすべての人に対して実施を求める情報セキュリティ対策施策の実施項目は増えるばかりであり、内容も複雑化・高度化している。我々は、これら施策に対して情報端末利用者が疲弊することを「情報セキュリティ疲れ(Information security fatigue)」と呼び、研究動機として、セキュリティ疲れに陥ることで組織などが実施するセキュリティ対策施策の効果が上がらなくことを問題視しており、その解決の方策を検討している。本研究では、試行的に大学生に対して、情報セキュリティ疲れ度の測定を一般的なバーンアウト測定の手法を援用した質問紙調査により実施し、潜在ランク理論による分析で5段階の相対的な分類を行った。これに対し、各段階に属する回答者の情報セキュリティ対策に関する自由回答を分析することによって各段階の特徴を明らかにした。



研究の概要①

バーンアウト尺度、CMMI (※) 等を参考に、セキュリティ疲労度を段階的なモデルによる可視化。(疲労度を大括りでとらえる)

※CMMI (Capability Maturity Model Integration) は、組織がプロセスをより適切に管理できるようになることを目的として遵守すべき指針を体系化したものである。)



セキュリティコンディションマトリックス

研究の概要②

セキュリティ疲労度毎の対策案(動的セキュリティ制御); 動的なセキュリティ環境コントロール。

例えば、常に最大の脅威を想定して対策した場合、脅威確率が小さいときはポリシーを緩くする